



ゴルフのルール変更から思うこと

会員 吉田 圭二 (65期)

20年近く前、サラリーマン時代には、仕事そっこのけ、有給休暇をとって、海外へ遠征に行くほどゴルフに熱中していた。千葉のナイター営業しているゴルフ場で、1日に2.5ラウンドしたこともある。とても今では体力が持たない。

子供が生まれてからは、十数年、ゴルフクラブは倉庫の中で埃をかぶっていた。

二人の子供が大きくなってきたこともあり、3年くらい前から再開した。まだ、コンペは1回のみだが、昨年、会派のゴルフ部にも入会させていただいた。

10年ぶりに再開して一番驚いたのはゴルフギアの進化である。特にドライバーはヘッドが相当大型化しており、シャフトのバリエーションも極めて豊富である。

そこで、ウッドは全て買い換えた。ハイブリッドなどという、良いとこ取りを謳うクラブもあり、メーカーの思惑にのって、色々取り揃えてしまった。

そのお陰で、飛距離は+30ヤード！スコアが平均10は縮まった！…などと言えれば、投資の効果もあろうが、もちろんそんなことはなく、相変わらず100を行ったり来たりしている。

一方、プロの世界はギアの進化による恩恵を（もちろん、日々の鍛錬があるからなのだろうが）十分に享受しているようである。PGAのプロなどは条件によってはドライバーが400ヤードを超えることもある。そこでコース側は、500ヤードを超えるミドルホールや、650ヤードを超えるロングホールなどを作らなくてはならない。コースを長く改修するのは、ゴルフコース運営会社にとってとても大きな負担となる。そこで、次はプロ用のギアを制限してはどうか（プロは飛ばないボールを使う等）という議論になる。ルールの変更である。

また、これとは全く別の動きで、R&AとUSGAが、これまでの複雑なゴルフルールを、アマチュアにもわか

りやすく、かつ、プレーが早くなるように変更する旨発表している。2019年1月1日から施行予定である。一部のゴルフ場では「Ready Golf！」をすでに実施しているところもある。これらも文字通り、ルールの変更である。

上記いずれのルールの変更も、14本のゴルフクラブを用いて、18ホールをできるだけ少ないスコアでプレーする、というゴルフルールの大前提は変えていない。ゴルフというスポーツを、今後も幅広い世代で、たくさんの人が分かり易く楽しめることも目的とした変更といえよう。

ところで、弁護士は、法律その他のルールを守る（使う）プロである。ゴルフと同様に、大前提（法律）は、（自分たちでは）変えられないが、運用上のルールであれば、目的を間違えなければ改変も許されるのではないかと思う。IT技術が進化して、弁護士もAIに仕事を奪われるとまで言われているのであるから、仕事の仕方を変えたほうが良いのかもしれない。

「裁判手続のIT化」は既に検討が始まっているのであるから、弁護士もそのような動きには追従しておきたいところである。

ゴルフから出発していささか強引に弁護士の業務につなげてしまった。内容面でも、尻切れトンボでイマイチとなったが、問題意識を持ちつつ、今後も業務に励みたい。

